

## 社会 第4学年 1 わたしたちの県のように 検討会の想定問答

**指摘 1：**本時で何を見取るのか。

**返し：**「自分たちの県には、どんな地形や産業の特色があるだろうか」について、比較した資料や記録から根拠を選び、事実と自分の考えを区別して説明している。結論の暗唱ではなく、根拠の箇所を指し示せるかを見取る。本時は単元で集めた記録を整理する時間として置く。

**指摘 2：**活動だけで終わらないか。

**返し：**都道府県地図で三重県の位置を確かめ、県内の地形・交通・産業の地図を同じ位置で比べる。海沿いと内陸など複数地域の違いから県の特色をまとめる。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線をつなぐ。(1)で求める理解と表現をそこで確かめる。

**指摘 3：**予想と違う結果が出た場合はどうするか。

**返し：**有名な施設一つを県全体の特色とする場合、県内の分布と他地域を比べる。隣県との境界と海岸線を区別する。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(1)に関わる考えを見直す学習として扱う。

**指摘 4：**説明や記述が難しい子にはどうするか。

**返し：**比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。県の特色を根拠付きで説明する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

**指摘 5：**安全や個人への配慮は何か。

**返し：**最新の自治体の地図を使い、産業の統計には対象年を添える。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(1)の問いを考える機会を確保する。

**指摘 6：**資料やICTはどのように使うか。

**返し：**都道府県地図で三重県の位置を確かめ、県内の地形・交通・産業の地図を同じ位置で比べる。海沿いと内陸など複数地域の違いから県の特色をまとめる。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

**指摘 7：**時数の根拠と削る場合の考え方は。

**返し：**全10時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「自分たちの県には、どんな地形や産業の特色があるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

**指摘 8：**振り返りと次の指導をどうつなぐか。

**返し：**「自分たちの県には、どんな地形や産業の特色があるだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。県の特色を根拠付きで説明する活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

